



春の到来、ようやく寒さからも解放されそうですね
 春の代名詞と言えば…サクラ
 今年は全国的に3月下旬の開花予想となっています
 コロナ禍以降、賑やかなお花見はご法度でしたが
 今年こそはサクラを眺めながら楽しめそうです
 年々歳を取るにつれて好きになるのが春の山菜
 香り、食感、チラ苦さ…何が美味しいのだろうか…
 と、子供の時分に思ったものです

| | | | |
|--|--|---|--|
|  |  |  |  |
| タラの芽 | フキノトウ | タケノコ | ゼンマイ |

この他にもツクシ、ノビル、ヤマブキ、三つ葉、セリ、ワラビ…
 沢山ありますが、どれもシンプルで美味しく感じます
 歳を感じる瞬間ですね(笑)

| | |
|-------|-----------|
| 3月3日 | 桃の節句、ひな祭り |
| 3月14日 | ホワイトデー |
| 3月21日 | 春分の日 |

～3月掲載内容～

*外国人技能実習生

*日 本

*近江友介のミャンマー通信 vol.10

*韓 国

アジアに関する情報、ご意見、ご相談、またはご意見等々お待ちしております。

投稿先: info@ibia.or.jp

外国人技能実習生

最近ではオンライン面接が当たり前になってきましたが、2月はミャンマーとベトナムで技能実習生の面接会を開催しました。

受入企業の社長様と組合のスタッフがミャンマー最大の都市であるヤンゴンへ行き、現地で面接を行いました。今回採用予定の2名に対し6名が集まり、午前は溶接の実技試験、午後は個別面談というスケジュール。



今回の企業様は初めて技能実習生を受入れるので、日本側にいる会社の方もオンラインでご参加いただき、面接の様子を見学して頂きました。

ミャンマーは突如起きたクーデターにより、現地での就職先、外資系の企業の撤退したために仕事を探している人材が溢れています。そのため日本への技能実習を希望する候補者が増えているのです。また候補者の学歴も比較的高く、今回の面接に集まった候補者たちの半数以上が大卒者で、中には日本語能力試験 N4 取得者も複数名いたのには驚きました。

今回は2名の優秀な人材を採用し、ミャンマーでの面接会は無事に終了できました。

ベトナムでの面接は受入れ企業の社長様と共にハノイへ向かいました。毎年中国から受入れている企業様ですが、今回初めてベトナムから受入れることにしました。



明るく元気な人材が多く、候補者が予定より集まったこともあり、実技試験、計算試験、面談を行った結果、2名の採用予定でしたが3名の採用となり喜んで頂きました。

アジアに関する情報、ご意見、ご相談、またはご意見等々お待ちしております。

投稿先: info@ibia.or.jp

【若者が沢山いる国】

中国、ベトナム、タイ、ミャンマー、インドネシア、カンボジア…日本での就職を希望している若者が沢山います。言葉の違いは勿論のこと、生活習慣や文化の違いなど気になる事が沢山あるかと思えます。受入れを検討される際には何でもお気軽にご相談下さい。



写真はヤンゴン市中心部にある「シュエダゴン・パゴダ」という寺院です。紀元前に建てられた歴史のある寺院とされており、昼夜問わず地元の人たちで賑わっています。

ミャンマーへ行った際は是非見学して下さい!!

国際ビジネス情報協同組合
和歌山市本町2丁目1番2号 グランセオ本町3F
(フォルテワジマ前、ブラクリ丁入口すぐ北側)
電話：073-476-5600 FAX：073-476-5700
メール：info@ibia.or.jp

アジアに関する情報、ご意見、ご相談、またはご意見等々お待ちしております。

投稿先: info@ibia.or.jp

日 本

【日本銀行総裁】



植田和男次期日銀総裁(71)



内田真一副総裁(60)



氷見野良三副総裁(62)

2月14日、政府は4月8日に黒田日銀総裁の任期を迎えるにあたり、新総裁に元審議委員の植田和男氏、副総裁に生え抜きの内田真一理事、元金融庁長官の氷見野良三氏を起用する人事案を国会に提示しました。

日銀の最高意思決定機関として政策委員会があり、金融政策の基本などを決定するなど9名で構成されています。注目すべきは金融政策の方針を決める政策委員会が、正副総裁3人と6人の審議委員で構成され、いわゆる積極的な金融緩和や財政出動を求めるリフレ派(参考参照)とされる副総裁の若田部昌澄氏、エコノミスト出身の安達誠司氏、学者出身の野口旭氏の3人と少なくなっていることです。後ろ盾だった安倍晋三元首相の急死もあって影響力が低下、市場には「岸田文雄首相がリフレ派に距離を置いている」との見方も出ています。

参考) リフレ

リフレーションの略

物価が下落するデフレでもなくインフレでもない緩やかな物価上昇の状態を指す。

金融政策や財政政策を通じてリフレにすることを目指す政策をリフレ政策と呼ぶ。

金融政策では資産買い入れの拡大など日銀のバランスシートを膨張させる政策のほか、明確な物価目標の設定を指す場合が多い…日経より

【これまでの金融政策のおさらい】

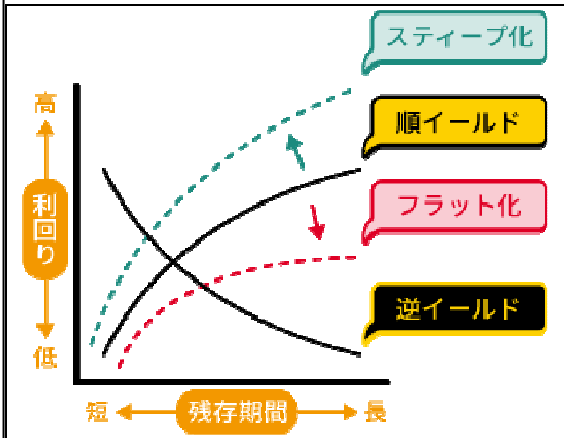
日銀は16年1月にマイナス金利政策を導入しました。これは銀行が日銀に預けているお金(日銀当座預金)の一部にマイナス0.1%の金利を適用するというものでした。マイナス金利とは銀行が日銀に預け賃を支払うというものなので、銀行としては日銀にお金を預けずに市場にお金を貸付しようとし、そのお金が企業の設備投資や新規事業に回れば景気が良くなると期待されたものですが、そのお金が市中に貸し出されるのとは違った副作用が出たのです。それは、その余ったお金で急激に国債を買う現象が起きました。国債が急激に買われて市中の国債の金利が大幅に下がりました。その結果、短期金利のみならず長期金利までもがマイナスになり、果ては償還までの期間が20年超の超長期国債の利回りですら0.1%を下回るようになったのです。これでは日本国債を運用先にしてきた生命保険会社や年金基金、銀行など多くの機関投資家は運用益をあげられません。

そこで2016年9月、日銀はイールドカーブ・コントロール(YCC 長期短期金利操作)という策を導入することで、イールドカーブの形状を適正に調整していこうとしたのです。

日銀の金融政策はそれまで短期金利を操作することが原則で、長期金利はマーケットの需給など

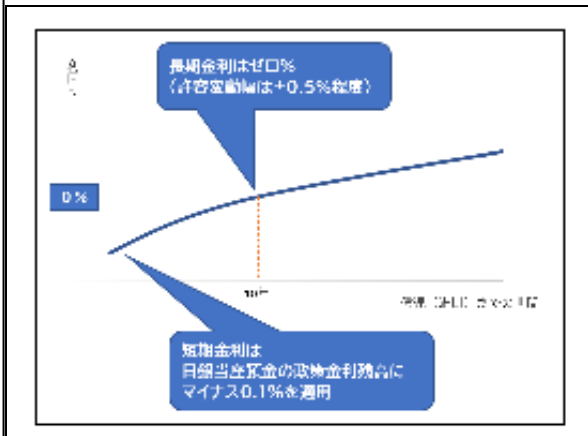
様々な要件を背景に自然に決まるものでした。これを長期・短期の金利をコントロールして短期金利のマイナス金利政策に加え、10年物の国債の金利をゼロにしようとして国債の買い入れを行い、短期から長期まで金利全体をコントロールすることを始めたのです。

この手法を「イールドカーブ・コントロール(YCC)」と言い、より人為的に金利水準をコントロールしていくことにしたのです。



軸に債券の残存年数(残存期間)、縦軸に最終利回りをとった座標に各債券の残存年数と最終利回りに対応する点をつないだ曲線のこと

因みに日銀がイールドカーブ・コントロール(長短金利操作)現在、短期金利をマイナス0.1%、長期金利を0%程度とすると示しています。



短期の政策金利(マイナス金利)と、償還までの期間が10年程度と長い国債(長期国債)の長期金利の2点の誘導目標を定めることで、国債利回りが描く曲線(イールドカーブ)全体を操作しています。

具体的には、短期金利は金融機関が日銀に預ける預金(当座預金)に1%のマイナス金利を付けて、また長期に金利は市中に出ている国債を買い入れて0%の金利を目指し調整しているのです。

【イールドカーブ・コントロール】

全体として行き過ぎたマイナス金利政策は長期・超長期の金利の大幅低下を招き、銀行や生保・年金などの国債運用収益に大きな打撃を与えています。また、日本銀行による長期国債の大量買入れは、将来の通常に戻る利上げ局面での日本銀行の財務悪化のリスクを高めているのです。

さらには国債の流動性を低下させ市場機能を損ねるリスクを高めたのです。

昨年6月には、10年国債金利が0.25%の変動レンジの上限を上回ることを回避するために、日本銀行は臨時の国債買い入れオペ、指値オペを通じて16兆円超の長期国債の買い入れを強いられました。その結果6月の長期国債保有残高は前年同月比で28.9兆円増加と、2019年6月以来3年ぶりの大幅増加となり、国債残高に占める日本銀行の保有比率は初めて50%を超えたのです。

【次期日銀総裁の発言】

2月10日の為替相場は、次期総裁に植田氏が起用されるとの報道を受け、円高・株安・債券安となりました。これは最有力候補で黒田緩和の継承者とみられた雨宮正佳副総裁よりもタカ派との観測が広がった為です。

植田氏は同日夜現在の日銀の金融政策は適切として「現状では金融緩和の継続が必要だ」と発言し、市場は落ち着きを取り戻しました。

相場は総裁の言葉一言で動き、一喜一憂するものなのです。

国債の大量購入で、日銀の国債保有額は13年3月の125兆円から23年1月の583兆円へと4倍超に拡大、発行済み長期国債の5割以上を買い占めました。

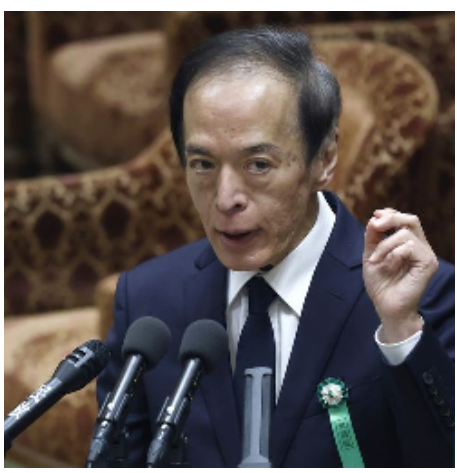
上場投資信託(ETF)の保有額(簿価ベース)も1.5兆円から36.9兆円に増え、多くの上場企業の主要株主になる正に異常事態となったのです。

日本の金融政策は長期・短期金利など過去にない異常事態であることに疑いがありません。

さて、この出口を何時どのような手法で行うかが植田次期日銀総裁に掛かっています。極端な政策を実施しないと思われ(出来ない)が、長期金利を一定の範囲に抑え込む長期短期の金利操作(イールドカーブ・コントロール)の修正の是非、何時行うかが当面の焦点になります。

参考に植田次期日銀総裁書き物があり、彼の考え方が見て取れますので是非見ていただけたらと思います。 [経済学から経済活動を分析する経済教室\(Nikkei.com\)](https://www.nikkei.com)

【所信表明】



2月24日、次期日銀総裁の候補で経済学者の植田和男氏への所信聴取衆院で開かれ「日銀が行っている金融政策は適切で金融緩和を継続し、黒田東彦総裁が主導してきた緩和策の検証は必要に応じて検討していきたい」と現状維持路線を示しました。

【所信表明の要旨】

- ①日銀が行ってきた金融緩和は適切で金融緩和は継続する
- ②インフレ目標の2%を持続的安定的に達成するまでには、なお時間を要する
- ③構造的に賃上げ状況を作る
- ④政府と密接に連携する
- ⑤物価安定の達成というミッションの総仕上げを行う5年間としたい

【質疑応答】

- ①物価2%の持続的・安定期な実現が見通せる状況になれば「現在採用している様々な強い緩和措置を平時の姿に戻していく」
- ②物価の基調的な動きが中々2%に達しない場合は「副作用を軽減しつつ、何らかの金融緩和を継続する」
- ③YCC(イールドカーブ・コントロール)は長期金利の変動幅拡大は市場機能の低下に配慮してYCC維持の可能性を高めるために取られた措置で、現在はその効果を見守っている状態、具体的なYCCの修正策については長期金利目標の年限の短期化や許容変動幅の再拡大をオプションの一つとしつつ、その他の選択肢もあると指摘
- ④消費者物価の上昇率は4%程度と目標の2%を上回っていますが、輸入物価上昇によるコストプッシュが主因で「来年度半ばにかけて2%を下回る水準に低下していく」と説明。2%の持続的・安定的な達成までにはなお時間を要する

- ⑤国債購入について「財政ファイナンスのためではなく、最大の目的は持続的・安定的な2%目標の達成」と強調。2%目標を達成した場合は「大量の国債購入は止める判断になると考える」と説明。
- ⑥保有する国債については「売却するというオペレーションに至ることはないだろう」と指摘。
- ⑦上場投資信託(ETF)の処分については「出口が近づいた場合に考えないといけないが、具体的に言及するのは時期尚早」としました。

これらを全体的に言えば当分は現状を維持して行く、2%の物価上昇が安定的になった時に必要な平時の政策を取っていくということであろうか…YCC(イールドカーブ・コントロール)について修正していくでしょう。

次期の日銀総裁が植田和男元日銀委員を起用することにほぼ決まりました。国会で所信を述べて市場は現状を保ち極端な変化がないと考えているのか、円はドルに対し弱含みの展開となっています。この植田氏に日銀総裁を任すことになったことなど、私見を述べていきます。

【植田和男氏が日銀総裁に選ばれた理由】

日銀総裁は過去を見ればよく分かりますが、財務省と日銀出身者が交代で就任しています。ところが今回だけは違う…何故違うのか。答えは簡単で財務省・日銀の誰もがなろうとしなかったのです。下馬評では雨宮正佳副総裁、元副総裁の中曾宏氏、山口広秀元副総裁、女性副総裁候補日銀マンの翁百合氏がならなかったのです。財務省OBも同様に受けようとしなかった…その理由は!?

極端な異次元の金融緩和をして国債の爆買い、長短金利のコントロールをしようとして株価を買い支えたために日銀の財務内容が悪化しています。長期国債を大量に保有していたために金利が少しでも上げれば国債価格が下落し巨額の含み損を抱えることに…そのうえ上場の投資信託まで買い株価を支えています。

現在日銀は前にも行けない、かといって後ろにも引けないところまで追い詰められているのではないかと思います。極端に言えば「四面楚歌」状態です。普通であれば雨宮副総裁が総裁になり、異次元の金融緩和の後処理をしなければならなかったであろうに…筆者は中央銀行たる日銀の内容を熟知していますが、故に固辞したのではないかと考えます。

植田和男経済学者が次期総裁になることはほぼ確実ですが、その心境は「切腹を覚悟した侍」でしょう。頑張っって正常な日本の金融政策に戻して欲しいものです。

【これからの日銀政策】

まず手を付けるのがこれまでの金融緩和の根本になるところで、YCC(イールドカーブ・コントロール)からだろうと考えますが、学者的な理論的な考え方がどこまで市場についていけるかを見守りたいものです。

日本はこれからどんな金融の措置を講じて、必ず痛みを伴うことを覚悟しなければならないと企業人として肝に銘じなければならない。私見ではありましたが前回120円台になると予想しました。これは日本を立て直すには大改造し、大ナタを振るわれない。もちろんその時にゾンビで生き残っている企業などの倒産が出ることは確かですが、今やらなければ日本が立ち直れないところまで来ているのです、それを次期日銀総裁が覚悟を決めてやるのだと考えたからです。これは決して言い訳ではありません。日本自体が倒産の憂き目にさらされていることを自覚しなければなりません。

GDPにしてもドイツに抜かれ4位になるかもしれない…一人当たりのGDPは27位、労働生産性が23位、国の借金だけが世界1…と、どれをとっても後進国になりつつあります。

日本人よ、いい加減に目を覚ませ!!!

植田氏が総裁になるについて、黒田総裁に路線を踏襲していくようで、為替相場に急な変化がないように思われます。

【荒井秘書官更迭】



荒井秘書官(55歳)が更迭されたことは既にご存知の通りです。

経済産業省官僚で、2021年10月に岸田内閣発足と共に首相秘書官に就任、演説の執筆など首相のスポークスマンの役割を担っていました。

毎日新聞は更迭の原因をLGBTQ(性的少数者[参考参照])など性的少数者や同性婚の在り方を巡って、多様性社会の中で差罰的問題ありとして報道、更迭されました。

報道内容は、2月3日夜に経済産業省出身の荒井勝喜首相秘書官が首相官邸で、オフレコを前提にした取材でLGBTQなど性的少数者について「僕だって見るのも嫌だ、隣に住んでいるのもちょっと嫌だ」と述べてほか、同性婚の合法化について「(他の首相)秘書官も皆反対だ」「認めたら日本を捨てる人も出てくる」と発言したと報道されました。

この報道を受け、岸田首相は荒井秘書官を更迭しました。

<筆者の問題定義>

ここで筆者が理解に苦しむことが幾つかあります。

この取材は3日夜、いわゆるオフレコを前提とした中で報道記者約10人が参加して録音や録画をせず行われました。この首相秘書官へのオフレコ取材は平日ほぼ毎日のように行われていました。

■問題1 オフレコでの取材

オフレコ(off the record: 記録にとどめないこと)を前提としての話ですが、考えてみても分かりませんが「内緒の話だよ」と記者と約束しておいての取材なのです。約束事を反故にして新聞記事にする…これは普通の神経!? 筆者は記者の品位を疑います。

毎日新聞によると、荒井氏を実名で報じることはオフレコという取材対象と記者の約束を破ることになるため、毎日新聞は荒井氏に実名で報道する旨を事前に伝え、3日午後11時前に記事をニュースサイトに掲載したとしています。

何のことはない、実名で報じることを伝えればオフレコなんて関係ないという姿勢なのです。

■問題2 個人的見解

荒井秘書官が述べていますが、その内容は主に個人的な見解や思想、考え方を述べているに過ぎないのです。毎日新聞はこれを奇貨として荒井氏の発言は「同性婚制度の賛否にとどまらず、性的少数者を傷つける差別的な内容であり、岸田政権の中核で政策立案に関わる首相秘書官がこうした人権意識を持っていることは重大な問題だと判断した」としています。

そこで考えてみてください。オフレコ取材中に私見、個人的見解を述べた、何を言おうがオフレコで個人的見解なのです…これが差別的な内容でしょうか!?

筆者だって傍にゲイが来て手を握られたらいやです。

この考え方を取材されて話をしたとすれば、「差別的」になるのでしょうか。左翼的メディアがよく使う「思想の自由」「表現に自由」などと声高らかに主張しているのをよく聞きますが、これを侵しているのは正に毎日新聞、あなたではないですか? 言うまでもないが憲法にまで「思想及び良心の自由を侵してはならない」と規定されています。幾ら公職に有っても個人的私見は皆持っているのです。それを話したことさら取り上げて、しかもオフレコの取材でという度が過ぎている

と言わねばならないでしょう。

考えてみましょう。多様性というのは色んな生き方を認めるということです。仮に「同性愛が嫌だ」という考え方も多様性の一部です。そうすると多様性社会というのが「認め合い快適に過ごせる社会」ある意味「我慢する社会」なのではありませんか？

多様性とは色んな考え方の人がいる、賛成もあれば反対もある、その反対の部分を見として述べことも出来る社会ではないのでしょうか。その中で荒井秘書官が「私はこうだ!」と発言したのです。それが多様性を否定するものでしょうか、余りにも見識が低いのでは…!?

<結論>

筆者的結論…毎日新聞あんたの負け!!!!

第1に記者を信じ取材を受けて荒井秘書官を裏切った。メディアは否定的に人を落とし入れることでなく「多様性」とは何かなど、しっかりと勉強し社会をリードして行ってほしいものです。

第2に、毎日新聞は人の信頼を平気で裏切るのか、個人的考えを述べて差別なんて言い出したら何でもかんでも理屈を付け非難されかねない。

それにしても私が公人でいたら大義名分を大事にし、モノも言えないようになる、ゾツとするね。参考) LGBTQ

Lesbian(レズビアン=女性同性愛者)

Gay(ゲイ=男性同性愛者)

Bisexual(バイセクシャル=両性愛者)

Transgender(トランスジェンダー=心と体の性が異なる人)

Queer/Questioning(クィアまたはクエスチョニング=性的指向・性自認が定まらない人)

上記の頭文字を繋げた略語で、いわゆる性的少数者(セクシュアルマイノリティ)の総称。

【ガーシー議員】



東谷義和(51歳)

色々な会社を設立してきましたがギャンブル依存症に陥り、資金を稼ぐ為に様々な芸能人の名前を利用した詐欺を行う。

YouTuberのヒカルの名前を無断利用した詐欺行為を告発されてドバイに逃亡。

2022年NHK党から第26回参議院議員通常選挙に立候補、287,714票の得票数で当選し、参議院議員となる。

2022年7月10日、第26回参議院議員通常選挙の投開票が行われた結果、NHK党が比例区で1議席を獲得。東谷がNHK党の候補者内で得票数1位であったため初当選を果たしました。

このガーシーこと東谷義和参議院議員こともあろうか、当選したものの国会に一度も出席せずにアラブ首長国連邦ドバイに滞在しています。



これに業を煮やしてとうとう参議院懲罰委員会(鈴木宗男委員長)で処罰されることが可決されました。その内容は2月21日公開議場における陳謝を科すことを全会一致で決め、22日の本会議で正式決定しました。東谷議員の次回の参院本会議出席

を命じ、2月27日午前11時までに可否を明示するよう文書で通告しました。応じない場合は懲罰委員会に再度付度され、最も重く議員の身分を失う除名処分の検討に入る見込みでした。

<筆者は思う>

選ばれたガーシーこと東谷義和議員もさることながら、国会にも出席しない議員を選んだ我々国民も猛反省しなければならない。

日本に帰国しないのは「日本返ってくると不当な罪を着せられる恐れがある」とし、NHK 党の立花党首から帰国しないように指示されているとしました。またガーシー氏の代理として本会議で弁明したN 党の浜田聡参院議員は、国会欠席の理由について「(帰国すれば) 国家権力により不当な拘束を受ける危険性を排除できない」と述べました。

国会にも出席もしないで歳費を貰う…これで国会議員と言えるのか。投票した人たちは猛反省しなければなりません。

このガーシー議員、2月27日午前10時50分すぎにガーシー氏の渡辺文久秘書が参院議院運営委員会の石井準一委員長に「本会議へ出席し、院議に従い陳謝文を朗読致します」とする文書を手渡しました。手渡したのは懲罰委員会から決められた期限である10分前でした。

参議院と言えば「良識に府」である。犬の遠吠えのごとく「ギャーギャ」全く国民を愚弄しています。

近江友介のミャンマー通信 vol. 10

【ヤンゴンの電力事情】



最近ヤンゴンでは1日に2回ほど街中で歓声と拍手が起こります。「ワァ〜」という歓声と拍手、そして色々な音が聞こえ始めます。

謎かけではありませんが、これは一体どういうことでしょうか!?

これは停電から電気がきた時に起こる人々の歓声と、電気がきて街が活動

し始めた時の様々な生活音なのです。

以前は停電になるとあちこちでジェネレーター(発電機)の音が聞こえましたが、最近はめっきり聞こえなくなってきました。特に夜間の停電の時は殆ど物音がしません。ガソリンの高騰でジェネレーターを使わなくなったのが一つの原因だと思います。



しかし、外灯が消えて物音が聞こえなくなっているにもかかわらず、あちこちの家の窓からは灯りが洩れています。

写真は充電式非常用照明、そうです、殆どの家で充電式非常用照明を使っているのです。(ヤンゴンでは日常用になっています)私の家でも使っていますが、電気がきた時真っ先に充電するようにしています。

【計画停電での生活】

現在、ヤンゴンは電力不足のため計画停電で一日に8時間くらい停電します。6時~10時、13時~17時が停電の日と、その反対の9時~13時、17時~21時が停電となる日の2パターンで毎日8時間の停電ですが、決まった時間に停電したり電気が来たりするのは慣れてくるとあまり苦にならず当たり前になってきました。今日は17時に停電になるから早めに夕食の用意をしておこう…9時の停電だから洗濯はその前にしておこう…と家事や仕事の面を含めて日課が決まってきます。

この時間は停電だから昼寝だとか、電気が来ているときにはあれをやっておこうとか、生活にメリハリがついてきている今日この頃です。

私は毎朝 5 時半から 6 時半くらいまで散歩をしています。外灯がついている時は良いのですが停電になると真っ暗になり、足元も見えづらく犬の糞を踏んでしまうこともありますので日の出前の散歩には懐中電灯は必需品です。そして電気というものの便利さを実感しているのですが、その反面では現在の世界は電気による便利さに甘えすぎているのではないかと感じています。

確かに電力は人の生活に大きな利益を与えてくれていますが、電力により便利になりすぎ電気がないと何も出来なくなっている事も否めません。

ミャンマーは水力発電と火力発電で電力を賄っていますが、送電線の劣化や反軍政勢力の攻撃などで十分な配電ができなくなっています。そればかりではありません、自国産の天然ガスは殆どタイに輸出して外貨稼ぎをしており、国民の電気料金の不払いが多く国内の電力不足への対応は蔑ろになっています。

【共産国との関係】

ロシアと原発の話をしているとニュースで報道していました。

武器はロシアから輸入し、クーデター後に撤退した外国企業の後釜に凄まじい勢いで中国企業が進出しています。外貨規制されているのに中国への送受金は可能になりました。

どうやらミャンマーは「赤組」に決定のようです。

近江友介さんの連絡先
yusuke ohmi 近江友介
Illuminate Asia Co,
Yangon, Myanmar
phone : 95-9-450001213
email: yusuke7180@gmail.com
<http://www.myanmaconsul.com>
http://blog.livedoor.jp/yusuke_ohmi

【ミャンマー生活基礎知識】

| | |
|---------|--|
| 貨幣 | 【公式レート】 1 米ドル=2, 100 チャット |
| | 【実勢レート】 1 米ドル=3, 000~3, 500 チャット |
| 入国 | ①有効なビザを取得していること |
| | ②到着 14 日以上までに承認済みのワクチン接種を完了していること |
| | ③国営保険会社ミャンマーインシュアランスへの加入が必要 |
| | RDT 抗原検査は到着 14 日以上前に摂取した承認済みのワクチンの |
| | (2 回) 接種証明書又は到着前 48 時間以内に発行された RT-PCR 陰性 |
| | 証明書を所持している場合、ミャンマー到着後の空港における RDT 抗原検査が不要 |
| テレビ | 国軍系放送・国営放送及び民放(NHK プレミアム)、CCTV 視聴可 |
| インターネット | OK |
| 携帯電話 | OK (ZOOM、LINE、Skype) |
| ATM | 銀行は週 30 万チャットまで、CB 銀行は 1 日 20 万チャット |
| | スペシャルアカウントは 1 日 100 万チャットの引き出し可能 |
| 集会 | ヤンゴン地域における公共の場での 5 人以上の集会禁止 |
| | 午前 0 時~午前 4 時の外出は禁止 |
| 交通機関 | 国際線、国内線 OK、タクシーは高くなっています |

韓国

【慰安婦運動の尹美香被告罰金刑】



韓国の元慰安婦女性を支援するための寄付金を私的に流用したなどとして、詐欺や業務上横領の罪に問われた元慰安婦の支援団体「日本軍性奴隷制問題解決のための正義記憶連帯(正義連)」の前トップで国会議員(無所属)の尹美香(ユン・ミヒャン)被告(58)に対し、ソウル西部地裁は10日、罰金1,500万ウォン(約156万円)の判決を言い渡しました。

尹被告は2011～20年に寄付金など1億ウォン(約1千万円)余りを私的に使ったなどとして20年9月に在宅起訴されました。

国やソウル市から補助金約3億ウォンを不正に受給したとされるなど複数の罪に問われ、元慰安婦の李さんに「利用されるだけ利用された」「募金は慰安婦に使ったことはない」「30年間騙された」との内容で告発されていました。

アジアに関する情報、ご意見、ご相談、またはご意見等々お待ちしております。

投稿先: info@ibia.or.jp